

【助成事業：広域商店街間物産交流コラボイベント】

ポイント

地域を超えた商店街間連携で集客・販促をパワーアップ

札幌の狸小路商店街は、狸が取り持つ縁で愛媛県の松山中央商店街連合会と連携してお互いの物産、観光、商店街の魅力をPRする広域型コラボイベントを開催。地域を超えた商店街同士の交流は双方の市民から高い評価を受けるとともに、販売業務提携によりアンテナショップでの販売が継続され、地域間交流による新たな商店街活動の可能性を拡大することとなった。

商店街情報

所在地：札幌市中央区南2条西2-13 札専会館6F

地域の人口：241,542人 135,701世帯

(札幌市中央区 平成30年3月現在)

商店街の類型：超広域型商店街

組合員数：179名

店舗数：224店舗(主な業種構成：飲食、紳士・婦人服、バッグ・アクセサリ、飲・食料品、土産物、薬局、ホテル、理・美容、娯楽など)

TEL:011-241-5125 FAX:011-241-5126

URL: <http://www.tanukikoji.or.jp/>



商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

地下鉄「大通駅」と「すすきの駅」の間に位置する、総延長900m・約220店舗の全蓋型アーケードを持つ全国でも有数の商店街。街区は24時間歩行者専用で、雨や雪にとらわれない安全・安心な買い物空間を構成している。

商店街の成り立ちは明治6年と古く、札幌に開拓使(明治政府の行政機関)の本庁舎が移転されると町屋や飲食店が並び、「狸小路」と呼ばれるようになった。現在は商店街の中に「狸神社」が祀られ、地元客だけでなく国内外から多くの観光客が訪れている。

店舗構成は飲食店や土産物店が多くを占め、チェーン店は少なく観光客向けの個人店が多い。歩行者専用のショッピングモールは、床面に滑りにくい御影石の表層材を使用し、通路の中央に点字ブロックを貼り付けてバリアフリー化を図っているほか、アーケードの要所に掲げられた大型のデジタルサイネージが鮮やかな色彩の映像で個店やイベント等の情報を発信している。

また、当地は「東京以北で最大の歓楽街」と呼ばれる「すすきの」に近い、客引きやピラ配り、無断で屋台を出店するなどの行為が横行し、「狸小路は危ない」として修学旅行生が来ない時期もあったが、商店街は警察や札幌市と連携して自主巡回活動組織を立ち上げ、民間交番も設置して自主規制に努めた。こうした努力が実って犯罪の件数が減少し、信頼が回復したことから、平成21年に安全・安心な商店街だということで内閣総理大臣表彰を受賞するに至った。一方当商店街では、これまで様々なイベントを行ってきたが、お祭りや収穫祭など年中行事的な色彩が濃く、マンネリ化の傾向にあったため、商店街が140周年を迎えるのを機に、新機軸を打ち出したいと考えていた。



安心・安全な商店街を構成する充実設備
(全蓋型ロングアーケード、点字ブロック、デジタルサイネージ、民間交番など)

助成事業の概要とその成果

当商店街では、「木更津・証城寺の狸囃子」「館林・茂林寺の分福茶釜」と並び日本三大狸伝説に数えられる「松山騒動八百八狸物語」に登場する隠神刑部(いぬがみぎょうぶ)の子である本陣狸大明神を昭和48年から商店街の狸神社に祀っている。平成12年の愛媛県松山市長の狸小路訪問をきっかけに、翌13年、狸の縁で当商店街は松山中央商店街連合会と姉妹提携を結んだ。さらに14年夏には松山市の商店街で北海道旅行が当たる懸賞付きの北海道物産展を実施し、その後も交流を続けてきた。

助成事業のきっかけは、平成25年に札幌狸小路商店街が創立140周年を迎えることから、これを機に札幌と松山で互いの物産、観光、商店街の魅力をPRし、観光客を誘致したいと考えたことにある。



左 本陣狸大明神社(通称「狸神社」)。丸いお腹を突き出した「水かけ狸地蔵」には八つの徳があると言われている

中 平成13年、松山中央商店街連合会(4つの商店街振興組合の連合体)と姉妹商店街の覚書を取交

右 本陣狸大明神には次女夫婦に双子も。それぞれの名前は一般公募により命名された(男の子:狸輝、女の子:結狸)

<平成25年度事業: 広域商店街間物産交流コラボイベント>

①「北海道 狸小路秋の収穫祭」(平成25年10/12(土)・13(日) 松山市で開催)

松山中央商店街連合会傘下の松山大街道商店街振興組合が助成金の交付を受け、松山三越と共同で狸小路商店街が扱う商品を販売するイベントを開催。狸小路商店街からは、理事長以下役員と事務局も参加してオープニングセレモニーを盛り上げた。北海道から直送された物産品の販売をメインに、狸つながりということで、伊予八百八狸の踊りや口上、松山たぬきサンバ歌謡ショーなどのステージイベントを展開。ゆるキャラ撮影会、たぬき野球拳、じゃがいもつかみ取りなどの催しで賑わいを演出した。

②「愛媛県 冬の収穫祭」(平成26年1/25(土)・26(日) 札幌市で開催)

狸小路商店街の青年会、女性会、店長会が中心となり、松山中央商店街連合会の販促委員を加えて実行委員会を組織し、札幌市等の運営支援も受けて「愛媛県 冬の収穫祭」を実施。狸小路商店街発足140周年イベントに、松山の商店街が扱う特産の柑橘類や地元銘菓などを出品し、愛媛のご当地アイドルのミニライブのほか、同県のゆるキャラのパレード等も行った。

<助成事業による成果等>

狸小路商店街で開催した「愛媛県 冬の収穫祭」は、真冬に北海道では果物ができないため冬場が旬の愛媛の柑橘類が好評で、予想を上回る売上を記録。北海道の1月は厳寒期のため来街者が減少するが、遠い愛媛県の物産に惹かれ広範囲に集客できた。街が取り組んだ商店街同士の交流イベントは札幌市民からも高い評価を受け、事業後は商店街の空き店舗を活用した道産食材のアンテナショップ「道産食彩HUGマート」で地域間交流の物産として販売を続けている。



上 平成25年10月 @松山市
「北海道 狸小路秋の収穫祭」イベント風景

中 平成26年1月 @札幌市
「愛媛県 冬の収穫祭」イベント風景

下 「道産食彩HUGマート」の店舗外観

助成事業以降の商店街活動

①各種事業への取り組み状況

愛媛県の物産展は、人や物の移動に係る経費負担が大きいと頻繁に行うことはできないが、当組合の役員が毎年松山を訪問して姉妹商店街との情報交換を続けており、個店レベルでも業務提携などの交流を進めている組合員も出て来た。

また、当商店街が応援する日本ハム球団のファーム球場が千葉県鎌ヶ谷市にある縁で鎌ヶ谷市商工会を介して「新鎌ヶ谷ふれあい街づくり協同組合」と提携し、「道産食彩HUGマート」に鎌ヶ谷のふるさと産品を展示・販売するなど広域的な連携を続けている。

狸小路商店街では狸がモチーフの商店街キャラクター「だっこポン」を始め、狸に因んだイベントが多く、お屠蘇をふるまう年始の初狸祭に始まり、7月下旬から8月中旬にかけては「狸まつり」と銘打った「ナイトバーゲン」や狸神社の例大祭などを行っている。特にナイトバーゲンは、毎年7月最後の土曜日に、1丁目～7丁目の各丁が趣向を凝らした出店や特売品の販売で盛り上がる。5丁目にはFM北海道の特設ブースが設置され、人気DJがアーケード内でしか聞くことができない放送も行っている。また12月の「現金つかみどり」は昭和24年から続く恒例行事で、商店街の買い物で抽選券がもらえ、ガラポン抽選で当たりが出たら最高額30万円の現金をつかみ取りできる人気のイベントである。



上 HUGマート内の鎌ヶ谷産品販売コーナー
特産品の梨やその他ふるさと産品が並ぶ
下 商店街マスコットキャラクターのだっこポン
写真は日本ハム優勝後に撮影されたもの



定例イベントの風景写真(左4つ)とポスター(右2つ)

上段左 初狸祭
上段右 ナイトバーゲン
下段左 狸八徳例大祭
下段右 現金つかみどり

②「青年会」と「店長会」がイベントを企画・運営

当商店街は街区が長いと、場所によっては通行量が異なるなど立地条件に差が生じてくる。こうした状況下で200軒を超える店舗を取りまとめるため、街区を1丁目から7丁目まで区割りし、それぞれに代表者を置く連邦制のような運営方式をとっている。

また、各店舗の女将さんによる「女性会」、商店の後継者で組織された「青年会」、チェーン店の店長や実質的な経営者で組織する「店長会」があり、これらが組織運営上大きな役割を担っている。特にチェーン店については、テナント契約時に振興組合への加入を義務付けており、「店長会」への参加も本部側が理解を示している。これらの組織が、街区内の清掃や防犯・防災活動を担当するほか、「ナイトバーゲン」や「狸まつり」等の規模の大きなイベントの企画・運営を行っている。また、毎年100名を超える参加者で従業員対抗ボーリング大会を開催し、従業員同士の横のつながりや一体感の醸成に努めている。



組合役員の皆さん

自治体による活性化支援等

札幌市

狸小路商店街が立地する札幌市の中心地区は、本市はもとより、北海道の顔として大きな役割を担っており、飲食や物販、娯楽施設等が集まっていることから、外国人観光客も多く訪れている。こうした中で商店街には、商業地としての魅力を高め、来街者にとって魅力的な街であり続けるための努力を期待している。一方、これまで増加してきた札幌市の人口は、今後は減少に転じる見通しで、少子高齢化が急速に進むことが予測されている。このため市内の商店街には、地域の賑わいづくりとともに、「少子・高齢化」や「国際化への対応」「地域資源の活用」「創業促進・事業承継」などの課題にも積極的に取り組んでもらいたいと考えている。これらを踏まえ市では、商店街への支援制度として「地域商店街支援事業」を以下の通り実施している。

①にぎわいづくり型事業

商店街が地域と連携しながら、にぎわいを創出するために夏祭りやスノーフェスティバル、地域文化祭、朝市などのイベント事業に取り組む場合、その経費の一部を補助している。

②地域課題解決型事業

商店街が自ら考える「少子・高齢化への対応」「安心・安全の確保」「地域資源の活用」「創業促進・事業承継」「環境への配慮」「国際化への対応」「地域交流の促進」といった地域課題の解決を通じた商店街活性化に取り組む場合、その経費の一部を補助している。

③ファシリテーター派遣

ワークショップの進行・運営のため、ファシリテーターを派遣し、各商店街の特性を生かした企画づくりを支援している。

商店街の今後の戦略

商店街150周年を目指して

助成事業による商店街同士のコラボイベントは、来街者からの評価が高く、マンネリ化しがちな商店街活動に新風を吹き込んでくれた。この経験から、商店街の魅力を高めるには、商店街同士が手を携え、互いの資源を補完し合い、話題づくりをしていくことが重要との思いを強くした。しかし距離が離れているほど人的移動や輸送費がかさみ、採算面では合わないため、観光振興をテーマに行政や航空会社と協力体制を築くとともに、5年後の商店街150周年には、大規模な連携企画を立案していきたい。

当商店街名物の「現金のつかみどり」は、最盛期に比べ回数は少なくなったが、商店街を代表する人気のイベントであることから今後も継続していく。一方、テナント店の増加に伴う組合員構成の変化等から、役員の担い手が不足気味となっているため、新しい世代が将来を担っていけるよう、地元商店の後継者でつくる「青年会」の育成に注力したい。



～ 仕掛け人 ～

札幌狸小路商店街振興組合

右 理事長 島口義弘
左 理事・会長 菊池恒

取材を通じて明らかになったこと

愛媛県松山市の商店街との海を越えた連携が実現した背景には、互いにゆかりのある「狸」をテーマに結びつきを強めたことと、北と南の風土の違いから観光や物産の面でつながりやすかったことがある。これに加えて、商店街の140周年の記念事業を札幌と松山でやろうというビジョンを掲げ、連携協定書により相互の協力の内容を確認していることが成功の要因として挙げられる。また、双方の役員が顔を合わせて綿密な打ち合わせを行い、それぞれの行政からの支援を得られたことも大きい。

本事例のように、距離的に離れた商店街同士の連携は、利害関係が少なく互いの資源を補完し合えるうえ、新しい発想やアイデアが誘発され、消費者への訴求力が高まるなどの効果が期待できる。

また、イベント活動の担い手として「青年会」と「店長会」を積極的に育成しており、役員による飲みニケーション等で意思の疎通や気配りを欠かさない。これにより「店長会」が大きな力となっているほか、ボーリング大会等を通じての従業員同士の連帯感の高まりがお客様へのサービスの向上につながっているといえよう。